

平成17年度 学校自己評価表

A：達成 B：おおむね良い C：不十分

学校名

松本筑摩高等学校全日制

学校番号

81

全日制教育目標		今年度の重点目標		成果		評価		来年度に向けて	
生徒一人一人の能力の開発と学力の向上を図る。自らの行動に責任を持ち、他人を尊重し、社会連帯を重んずる態度を涵養する。健康と体力の向上に努め、たくましい精神力を培う。		松本大学との連携授業・3年生全員の就業体験を成功させ、前期選抜に向けての筑摩全日の特色の一つとする		連携授業によって、大学・短大進学希望者の意識づけができた。就業体験者数：3学年95人中16人		B		大学のみならず専門学校とも連携授業を実施したい。就業体験者数を増やす指導を考えたい。	
		授業に向かう姿勢を生徒たちに問い、尚かつ教師自らも問うこと		授業態度が問題な生徒への段階的な指導ができた。年間2回の授業自己評価を実施。		B		生徒に実施する授業評価の内容等を再検討したい。	
		地域の信頼を得るような学校作りを、生徒会も巻き込みながら推し進めること		生徒会の地域への発止は、難しい現状である。		C		ボランティアセンターを校内に設置して、地域への発信基地としていきたい。	
		「環境の日」を中心に美化意識を高めること		年2回の「環境の日」を実施。		C		「美化意識」を高める方法を模索したい。	
対象	評価項目	評価の観点		成果	評価	来年度に向けて			
入学者選抜	前期選抜の初めての実施	前期選抜の主旨を各中学校に伝えることはできたか		松本市内の中学校を中心に23中学校を訪問。	A				
	前期・後期選抜業務	支障なく選抜業務を実施できたか		支障なく選抜業務が実施できた。	B	手引き・資料の細部の更新			
教育課程学習指導	全学年実施の「総合学習」の内容充実化	年間スケジュールに沿った展開ができたか		計画通りに展開できた。	A	より内容を充実した授業を展開していきたい。			
	年2回実施する授業評価	全職員が授業評価に前向きに取り組めたか		2回全校生徒への授業評価を実施	B	評価方法等の検討をしたい。			
	多岐にわたる資格・検定試験の実施	受験者数・合格者数を増やせたか		漢字検定2級1名・準2級1名合格	C	合格者を5名以上にしていきたい。			
生徒指導	中途退学者を少しでも減らすこと	昨年より中退率を下げることができたか		5.7%から4.7%に下げることができた。	B	中退率を4%以下にすることを目標としたい。			
	授業に集中できない生徒への指導	段階をおった指導ができたか		指導の成果が表れ3学期は落ち着いた授業ができた	A	今の状態が維持できるよう4月当初から投げかけていきたい			
	遅刻・中抜け・早退への対応	指導に工夫がみられたか		休み時間等の中抜けが減少した。	B	授業のさぼり防止策を検討していきたい。			
	自転車ステッカーの徹底	乗り方・駐輪マナーを守らせられたか		2回の指導を通して、8割程度実現できた。	A	来年度も2回実施する予定である。			
	生徒指導通信の発行	生徒たちへの問題の投げかけとなったか		発行部数が少なかった。	C	読みやすい通信を心がけ、発行回数を増やしたい。			
	スクールカウンセラーの活用	生徒相談の一環として効果があったか		相談者がたいへん少なかった。	C	スクールカウンセラーの定期的な来校を検討したい。			
進路指導	松本大学との連携授業	大学進学希望者の進学意識が高まったか		7名のセンター出願、国立大・公立短大への合格	A	引き続き実施していきたい。			
	第2進路室（進路学習室）の設置	有効利用できたか		HR教室に近いので、利用度が高まった。	B	資料を充実させて進路情報発信の場としたい。			
	進路シラバスの作成	進路学習到達度を生徒各自が自己評価できたか		各自の目標到達までの指針は与えられた	B	進路実現に対する評価の方法を研究していきたい。			
	フリーター・ニートの減少	限りなく0%に近づける		ほぼ目標を達成できた。	A	引き続き努力していきたい。			
生徒会	委員会活動の活発化	当初の計画通りの活動が、日々できたか		後期の見直しを含めた計画を立てることができた。	C	「例年通り」で終わらせず、さらなる探求をしたい。			
	「ちくまっ子」の発行	生徒会への関心を広めることができたか		文化祭前の発行数は計画を上回った。	B	文化祭関連以外でも広く広報に努めたい。			
	文化祭でのクラス展示の内容	どのくらいの創意工夫がなされたか		初の統一テーマでの展示が実現できた。	B	テーマを早く決定し、さらに内容を濃いものにしたい。			
	部活動の活発化	クラブ加入率は、高まったか		一部クラブの加入率は高まった。	C	数だけでなく、活動そのものを活性化したい。			
1学年	きめ細かい進路指導（個人面談・朝ドリル）	生徒の進路意識が高まったか		総合学習・学年通信を通して進路意識が高まる。	B	朝ドリルの取り組みを良くしていきたい。			
	学年で統一した生徒指導（学年通信など）	学年と係との連携プレーによる指導ができたか		登校反省指導によりきめ細かな指導ができた。	B	未然に予防する指導を検討していきたい。			
	部活動・生徒会活動への勧誘	活動している生徒の割合はどのくらいか		部活動加入率50%以上、生徒会役員20名	A	どちらの活動もしていない生徒の指導を工夫したい。			
2学年	沖縄修学旅行への取り組み	事前学習を全員で取り組めたか		旅行委員を中心に事前学習と文化祭の展示発表を全員で分担した。講話・ガマ見学が印象的だった。	A	最終学年として新たな目標を設定していきたい。			
	進路希望の明確化	未定者をなくす指導ができたか		4月調査で未決定者25名、2回目で11名に減少。	B	1学期中に未決定者を限りなくゼロに近づけたい。			
3学年	すべての生徒の気持ちを汲んだ進路指導	面接指導によって生徒の進路意識が高められたか		フリーター思考の生徒達を強い進路指導で就職へと気持ちを転換させることができた。	A	進路指導係と担任団との連携がもっとも大切にして進路指導を実践していかなくてはならない。			
	進学・就職講座の開設	中退者を最小限にとどめることができたか		中退者は、2名であった。	B	夏休み中や文化祭中での生徒指導に気を配る必要がある。			
	全員の卒業を目指しての生徒指導	意義ある清掃美化の日となったか		学校行事として定着してきている。	B	事前準備をしっかりとるようにしたい。			
環境美化	年2回実施の「環境の日」	トイレの美化に努められたか		年間通じての美化とはなっていない。	C	美化委員会の活動を活発化させていきたい。			
	トイレ清掃	生徒達に習慣づけられたか		まだまだ浸透はしていないようである。	C	美化委員会を通して生徒達に徹底化させていきたい。			
	教室・研究室での古紙回収	放課後、整然とした教室になっているか		清掃クラスマッチの実施は、効果があった。	B	清掃クラスマッチを年2回は実施してみたい。			
	教室清掃	英語科を中心に公開授業を積極的にできたか		2回授業公開を実施。	B				
校内研修	初任研での授業公開	教材研究の工夫に対する意欲が高まったか		国語・政経・情報処理の授業内容を高められた。	A	より計画的にシラバスの中に組み込んでいきたい。			
	松本大学との連携授業の公開	日々の教育活動に役立つ研修を実施できたか		精神科医による精神衛生講話を5回実施	B	来年度も「心理学」関係の講習会を開催したい。			
	校内職員研修の実施	有効な連携ができたか		教務・進路・生指3点での連携は何とかができた。	B	より一層の連携を図っていきたい。			
組織運営	各主任と学年主任との連携	役割分担の見直しと仕事内容の効率化が図れたか		一部分仕事内容・人数の変更をした。	B				
	校務分掌の見直し	様々な場面でスムーズに協力できたか		文化祭・卒業式では、相互協力することができた。	B	教科・分掌での情報交換を活発化したい。			
	他パートとの相互協力	多くの会員の協力が得られたか		役員を中心に協力が得られた。	B	中学校区別の地区PTAを継続させたい。			
PTAとの連携	文化祭・強歩大会での協力	有意義な講座となったか		地域住民の参加によって、有意義な講座となった。	B	地域住民への宣伝を広げていきたい。			
	夏の芸術講座	年2回の公開授業が実施できたか		実施できなかった。	C	検討したい。			
地域連携学校宣伝	地域公開授業の企画	日々更新に努めることができたか		日々の更新に励んだ。	B	内容を検討していきたい。			
	ホームページの充実	中学生にとって、本校を志望する機会となったか		参加者の中で本校を志望していた生徒は少なかった	C				
	10月20日実施の体験入学	3校以上の中学校で実施できたか		2校で実施できた。	B				